

田ノ口小学校

『意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる
児童の育成』

校長 乾 健児

◆ポカポカの日だまりに

休み時間になると我先にと自分の好きな場所に急ぐ。ブランコもいればシーソーやUFOなどの遊具、サッカーや一輪車などのスポーツ：それぞれが思い思いの遊びを楽しんでいる。みんな笑顔で活動的である。チャイムが鳴ると大急ぎでまた教室に戻る。

先に行った校内アンケートでほとんどの子が、「学校はとても楽しい」と答えている。この子らがますます輝くためにどのような教育を積み重ねていけばいいのだろうか。

◆学校は失敗を体験できる場

学校は、学習の場であり、また集団生活の場でもある。すべてが思い通りのパーフェクトに事が運ぶ子どもはそうはいない。それどころか、失敗の連続があるかもしれない。日々の間違いや失敗を活かす取り組みを進めることによつて、子どもたちは自分自身で

課題に対する答えを見出す事ができる。そして強くたくましく生きる力に…。もちろん、授業中が一番間違いを大切にされる場所なのである。それぞれが自分の考えを持ち、それを仲間にしつかり伝えられる学習集団をみんなで目指している。

最近では、毎週月曜日の生活朝会や音読発表などの集会でもしだいに声が出るようになり自信へと繋げている子どもたちが増えてきている。

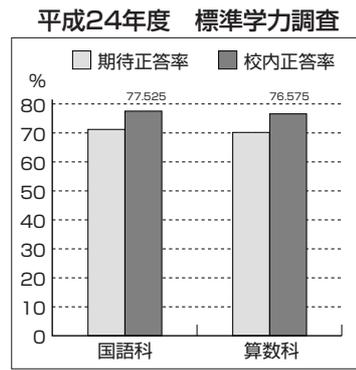
◆34・4メートルの高台に

黒潮町全体の課題でもある防災教育。田ノ口小学校においても自ら命を守る教育に力を入れ、研修や地震の発生状況を変えての避難訓練を繰り返している。

今回の設定は昼休み。お弁当の子や係り活動、校庭で遊んでいる子など：バラバラの状況で地震発生放送：職員室より校庭を眺めると安全な中央へさっと集まっている子どもたちの姿があった。各学級においても頭を覆い机の下へ隠れたり落下物を避けたりそれぞれ場でそれぞれの対応ができていたとのこと。第1避難所までの時間は1分

50秒。なんと記録更新である。自分の命を自分で…その意識が子どもたちに浸透しつつある。

◆基礎学力の定着を目指して



本年度の学力テストの結果も学校全体としては、期待正答率、平均点ともに全国を上回っている。教科により同等の学年もあるが、昨年度に比べどの学年も学力の向上が伺えており、引き続き日々の授業を大切に、考えを文章化し説明したり、学んだ知識を次のステップで活用できる能力を育てていきたい。

◆仲間との触れ合い・協力

仲間づくりとして共同作品に取り組んでいる学級がある。何を作るのかどれ位の規模にするのか：自分たちでミーティングを重ねていった。形が見えるにしたがい子どもたちの様子に変化が現れ「めんど

くさい」「しんどいので嫌」と発言していた子どもたちにも真剣な眼差しが宿っていた。みんな力を合わせて作品を仕上げたことや相手の立場を考えたことや協力し対応したところ：本来なら自然に培われてきたであろう大切なものがそこにあるような気がした。

◆みんなの力が一つに

子どもたちが、中心の2人と次々に手を繋ぎ合い校庭いっぱい大きな花を咲かせた。昨年より運動会における一輪車の競技を創作に切り替えた。希望者を募り自分たちで曲を決め、それに合わせて一つひとつの動きを考えていった。チームをいくつにするか、どこで何をいれるか：。今年の練習日は、何と9日間。雨の日もあるだろうに…と心配になった。しかし、そんな不



安を払拭してくれたのは、6年生を中心とする高学年のグループ。昨年の経験を活かして低学年をしつかりサポートしている。何より可愛くて教育的なのは、遅れまいと必死にペダルをこぐ下級生の子どもたち：（頑張れ頑張れ）と願っていると、何と子どもたちが横一線につながり大車輪を完成させていた。

◆地域のバックアップが力に

今年も読書ボランティアやだいこん交流、稲作体験やきゆうりの苗植え、「しらゆり」やお年寄りとの交流会など、地域や保護者の皆さんに関わっていたいただいている行事には限りがない。学校にとつてこれらは単なる行事ではなく、地域からの『温もり』のプレゼントであると考えている。先日母校舎に隣接したみかん畑の持ち主さんから、子どもたちにみかん狩りを体験させて欲しいと嬉しいお誘いがあった。地域の皆さんからいただいたこれら一つひとつの学習や体験が、子どもたちの心を優しく思いやりのある人間へと育てていただいている…と考える。